

## 共に生きて

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

## 小さな命の キセキ



7

登山 万佐子

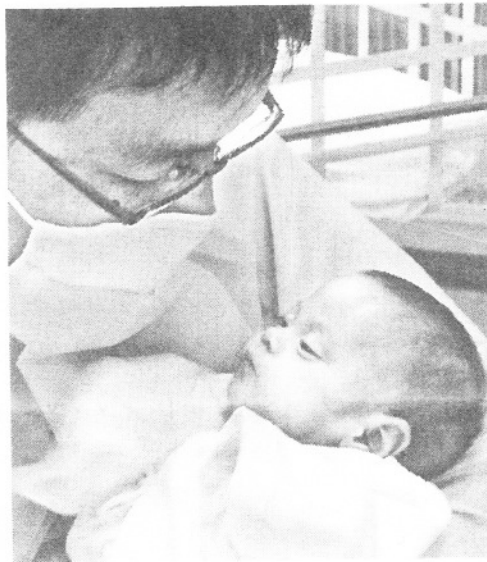
体重千々未満で生まれた「超低出生体重児」の長女綾美(8)。生後150日目に保育器を卒業し「コット」という小さなベッドに移りました。保育器の外では自分で体温をコントロールしなければなりません。体温調節がうまくできない状態で生まれてきた娘にとって、大きな前進でした。

コットに移り、初めて着たぶかぶかの産着姿が何ともかわいらしく、赤ちゃんらしくなったなど感じました。体温調節がうまくいき、抱っこしての授乳、もく浴など自宅での生活に向けた練習が始まりました。夫も汗だくで抱っこし、哺乳瓶でミルクを飲ませ

る練習をしました。

目の術後の経過も落ち着き、いよいよ退院へ。聴力検査、肺のエックス線検査、脳の磁気共鳴画像装置(MRI)検査も終わり、生後6カ月

## 生後半年 ついに退院



綾美ちゃんの退院が近づき、父親が抱っこしてミルクを飲ませる練習も始まった

ようどの2007年5月に退院しました。わずか452gだった娘が2500gを超えていました。それでも、長男(13)の誕生時よりも一回り小さい赤ちゃんでした。当時、夫は日付が変わる時間には帰宅できない毎日。大半の時間、私一人で子ども2人を世話しなければいけません。新生児集中治療室(N

ICU)では、医師や看護師、多くの医療機器に24時間、見守られています。医学の知識がない私が娘を守るのか、自宅に戻っても大丈夫なのか。退院はうれしい半面、とても心配でした。NICUを退院したばかりで風邪をこじらせて小児病棟入院する方を目の当たりにしたこと

も、私を神経質にしています。娘の退院を前に大急ぎで買った物があります。除菌機能付きの洗濯機、加湿機能付き空気清浄器、アルコール消毒薬、マスクの山。娘の物は新しい洗濯機の除菌モードで洗濯、乾燥。決して家族の物とは一緒に洗わず、外にも干しません。空気清浄器もエアコンもフル稼働で室温、湿度を常に気に掛け、家に入るときはお客さまも手洗いとアルコール消毒を徹底してもらいま

した。息子の友達もしばらくは出入り禁止。NICU並みに徹底しました。夜中は呼吸が止まっている不安で、何度も何度も娘の顔に近づいては呼吸を確認し、熟睡できません。今思えば笑えるほど大げさだったのですが、当時は大真面目。後にNICUを経験した仲間と話すとき、みんな同じようなことをしていたそうです。

こんな感じで最初の数カ月間は、風邪をひかせないこと、体調を崩さないことに全神経を使っていました。娘の小さな目にコンタクトレンズを着けたり外したりするのも、コンタクトを触った経験がない私には一番緊張する時間でした。県外に住む母が時間を見つけて手伝いに来てくれたことが救いました。

(「N」子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)